



CIRのつぶやき



国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る



Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs

2020.08.01 第4号 世界中の注目を集めているモンゴル出身のバンド「THE HU」



サインバイノー! (こんにちは) モンゴルのCIRボロルです。
今回の記事では、今話題になっているモンゴルのロックバンド「THE HU (ザ・フー)」を紹介したいと思います。

このロックバンドは2016年結成以降、フンス (匈奴ロック) という音楽新ジャンルを世界中に宣伝し、世界中から注目を浴びています。彼らのボーカルにはモンゴルの歌唱法「ホーミー」を取り入れています。ホーミーとは、一人の人間から一度に2つ以上の声が聞こえるという世にも不思議な歌唱法です。その他、モリンホール (馬頭琴)、トブショール (モンゴル版リュート)、口琴等の伝統楽器を使用したモンゴルの伝統音楽とロック・メタルを独自のやり方で組み合わせた曲を演奏しています。

バンド名の「HU」は、モンゴル語で“人類”を意味します。独特なサウンドで話題になり、デビューアルバム『Gereg (ゲレグ)』は2019年9月にリリースされ、Billboardのハードロック・デジタルソング・セールスチャート1位、UKロックチャートで2位を記録しました。デビューからの2曲「Yuve Yuve Yu」と「Wolf Totem」が瞬く間にソーシャルメディアの注目を得て数日間で3000万におよぶ再生回数をカウントしたほか、米ラジオ局NPRやDW News Germanyといった国際的なメディアからも好評を博しています。面白いことに、2019年9月からアメリカで「THE HU」というチョコレートを販売し始めたそうです。

世界中の人々はモンゴル帝国というと英雄チンギス・ハーンだけを想像しますが、モンゴル帝国は初の郵便制度、貿易ルート、外交旅券等を世界中に先駆けたことはご存じですか?これをきっかけに新アルバムを『Gereg』と名付けたそうです。これはモンゴル帝国、チンギス・ハーン時代の外交旅券を指す言葉です。

日本での初公演が2020年3月12日 (木) に東京・新宿BLAZE、13日 (金) に大阪・梅田クラブクアトロにて行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。世界中に脅威を与えている恐ろしいパンデミックが近い将来収束し、世界中が平穏に戻りましたら、日本でも公演を開催することを願っています。私もその時に見に行きたいと思っています。

気になる方は、是非ネットで検索して見てください。





CIRのつぶやき



国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る



Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs

いいね!
押してね😊

2020.08.01 第4号 モンゴルを代表する伝統的な楽器「馬頭琴」



【モリン・ホール】

馬頭琴は、モンゴルを代表する伝統的な弦楽器です。モンゴル語で「モリン・ホール」と言い、馬を家族のように愛するモンゴル人にとって、馬頭琴は深い愛着のある特別な楽器です。「馬頭琴」と聞くと、まず、小学校の国語の授業で勉強した物語「スーホの白い馬」を思い浮かべる人が多いと思います。しかし、どのような形で、どうやって弾き、どんな音が鳴るか、イメージできる人はそれほど多くないのではないのでしょうか？ちなみに、馬頭琴の由来にまつわる物語である「スーホの白い馬」は中国の内モンゴルを中心に語られてきた民話であり、モンゴル国では知名度が低いです。日本では大塚勇三氏が1967年に中国語のテキストから翻訳し、絵本として出版したそうです。

さて、馬頭琴について紹介します。馬頭琴のボディは木製で、ネックの一番上には必ず馬の頭の彫刻がついています。弦は馬の尻尾の毛を束ねてできている2本で、馬の毛を張った弓で弾きます。バイオリンなどの弓と構造的には変わりありませんが、近代楽器の弦楽器では決して出すことの出来ない音です。

馬頭琴の持つたった2本の弦を用いた演奏方法も独特で、下から弦を押し上げるようにして音階を作りますが、奏するのは音楽だけではなく、動物の鳴き声や風の音などモンゴルの大自然が生み出すさまざまな音を表現できることがその最大の魅力かもしれません。

「モリン・ホール」の伝統音楽は2003年、ユネスコの「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」において傑作の宣言を受け、無形文化遺産に登録されることが事実上確定し、2009年9月の第1回登録で正式に登録されました。

馬頭琴はとても縁起の良い楽器と言われています。馬頭琴を弾くと、その家に『幸せ』が訪れると信じられてきたことから、モンゴル人は馬頭琴を家の上座周囲の壁に飾る習慣を大切にしています。そして、大切な人にお土産として差し上げたり、宴会やお祝い事で弾いたり、暮らしの中での出番も多い楽器です。



スーホの白い馬 大塚勇三氏 著 永野実吉 画

幸せを呼ぶ力があるとはとても神秘的で不思議ですね。このような楽器は珍しいのではないのでしょうか。

現在、モンゴルには大小さまざまな楽団があり、日本はもとより世界中でコンサートが開催されています。

馬頭琴演奏者の動画を滝川市国際交流員/Takikawa CIRsフェイスブックページにも投稿したいと思いますので、関心がある方は是非一度聞いてみてください！

(ボロル)